

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属中学校

校長 平岡 伸一郎

## 2017年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2017年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。

### 1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。以下、各クラスで実施したアンケートを集計し、それぞれ学年ごとにまとめた結果について見ていきます。

④「授業は分かりやすいですか」の質問に、「分かりやすい」との回答が中学1年の7割を超え、中学3年では8割を超えるという高い数字となっています。「どちらかというと、分かりやすい」まで含めると、回答は全学年が9割を超えています。また、⑦「授業は、先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問にも中学1, 2年の約7割、中学3年の8割の生徒が「参加しやすい」とやはり回答の数字は高くなっており、「どちらかというと、参加しやすい」まで含めると回答は9割を超えています。これらの質問に対する回答の高さの理由として、本校は少人数クラスで授業をおこなっており、必然的に生徒一人当たりに対する教員からの問いかけや働きかけの回数が多くなるので、生徒の授業への参加意識が高くなっているからだと思われます。また、積極的に授業に参加することによって、授業の理解度も深まっていることがうかがえます。

同じように⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」と⑩「授業を受けて、学力がついたと思いますか」の質問にも、それぞれ「興味が深まったと思う」、「学力がついたと思う」と回答した生徒は中学1, 2年では5割を超えており、中学3年では7割に迫る高い数字となっているのは、やはり授業に参加しやすい雰囲気によって、生徒の授業に対する集中力が高まった結果だと考えられます。⑭「この教科の内容は理解できますか」の質問に対しても、中学1, 3年で6割を超える生徒が「理解できる」と回答していますが、⑬「この教科の勉強を日常していますか」の質問に対する「毎日している」「ときどきしている」の回答の数字がもっと上昇すれば、さらに教科の内容が「理解できる」と回答する数値は上昇すると思います。

最後に⑮「いつからこの教科が理解できなくなりましたか」の質問に、各学年とも「中学校1年」の回答が一番高くなっています。この回答は⑭の質問で「ほとんど理解できない」と回答した生徒を対象にした質問なので、該当生徒は少数なのですが、中学に入学すると、学習内容が高度になるため、学習に遅れ

る生徒が出てきがちです。そうしたことを踏まえて授業はおこなっていますが、この回答を見て、中学入学後の生徒に対する授業への取り組みについて、改めて考えさせられる契機となりました。

## 2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

まず、授業に臨む姿勢についての自己評価では、「チャイムが鳴ったら席に着く」の質問に対して、「守っている」と回答した生徒は中学全体で33%と低いですが、実際は始業時には生徒は着席しています。この結果は、始業前に教員が教室を巡回し、着席を促しているため、生徒が着席について教員に注意を受けていると感じている結果だと思われます。

次に授業を受ける態度についての自己評価では、「授業中にノートをとる」という質問に対し、8割以上が「守っている」と回答しています。少人数で授業をおこなっているため、教員の目が全員に行き届きやすく、手が止まっている生徒に対しては教員がすぐに注意できるので、ノートをとらないということが起こりにくい環境にあるのが、その理由と考えられます。「授業中いねむりをしない」、「私語をしない」という質問に対しては、いねむりをしたり、私語をしたりしていると教員からすぐに注意を受けるので、「守っている」と回答する生徒は少なくなっています。「授業中にほめられることがある」の質問には中学1年、2年は「ほめられることがある」の回答が高く、中学3年は低くなっています。これは中学3年の2学期以降は高校受験に向けて、授業内容が演習中心にならざるをえないのが理由と考えられます。

学習についての自己評価では、「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問に対し、「きちんと取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」と9割の生徒が回答しており、「1日に家庭学習をどの位していますか」の質問に対する中学全体の回答、「2時間以上」24%、「1時間くらい」42%の数字を裏付ける結果となりました。

## 3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

まず、生徒の学校生活についての評価ですが、「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に対して、「よくあてはまる」と6割の生徒が思っており、「ややあてはまる」まで含めると95%の生徒がそう思っています。本校では毎週金曜日には生徒会が校舎の玄関前に立って挨拶運動をおこない、生徒が挨拶を活発におこなうように啓発活動をすすめています。他にも毎日、園芸委員が校舎前の花壇に水やりをしている際も登校してくる生徒に自然と挨拶を交わしており、そうした活動を通じて生徒の間で挨拶が定着しています。「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」、「この学校は、生徒が清掃にしっかり取り組んでいる」の質問に対しても「よくあてはまる」「ややあてはまる」と約9割の生徒が回答しています。本校では様々な行事があり、なかでも中学3年5月に実施するニュージーランド研修での現地生徒との交流会での演し物、体育祭での中学校全生徒によるソーラン踊り、文化祭・文化発表会でのクラス発表などの練習や準備に熱心に取り組んでいます。そうした取り組みを通じて培われた自発性が清掃活動などにも及んでいると思われる。生徒もそうした点を自己評価したと考えられます。

「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」、「この学校の生徒は、校則を守っている」の質問に対し、「よくあてはまる」と回答した生徒は少ないですが、教員から見て生徒は遅刻をほとんどせず、校則もよく守っており、これらの点に対する自己評価が低いように思えます。遅刻については、朝のSHR開始が8時35分で、それ以後に登校したら遅刻となるのですが、本校では予鈴が鳴る8時25分までに登校するように指導しているため、生徒たちは8時25分以後登校した場合、それを遅刻ととらえてい

るようです。校則についてもシャツがズボンから少し出ていたのを教員から注意されたとか、そういった次元でも校則を守らなかったととらえていると思われま

す。「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」の質問に対し、中学3年で「よくあてはまる」と多くの生徒が答えているのはよくわかりますが、中学2年でも非常に多くの生徒がそう答えています。それが「私は、進路について目標を持って毎日の学校生活を送っている」の質問に対しても中学2年

が中学3年と変わりのない回答につながっていると思われま

次に教員の指導に対する生徒からの評価ですが、「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」の質問に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と8割以上の生徒が回答しています。保護者の方から学校に対するいじめ防止、生活指導に対し、期待されるところが大きいので厳しく指導しております。生徒たちも厳格な指導に対し、素直に応えてくれているので、学校内・各教室内の秩序はよく保たれています。生徒の回答はそうした学校の生活指導面に対する評価と思えます。